

〔原著〕 松本歯学 11 : 222~244, 1985

Key words : 冠・架工義歯 — 架工歯 — 統計 — 1980

昭和55年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察

平野龍紀, 杉本久美子, 戸祭正英, 石原善和, 伊藤晴久
岩崎精彦, 乙黒明彦, 大野 稔, 片岡 滋
大溝隆史, 甘利光治

松本歯科大学 歯科補綴学第2講座 (主任 甘利光治 教授)

Statistical Observation of Crowns and Bridges in Matsumoto Dental College in 1980

TATSUNORI HIRANO, KUMIKO SUGIMOTO, MASAHIDE TOMATSURI,
YOSHIKAZU ISHIHARA, HARUHISA ITOH, KIYOHICO IWASAKI,
AKIHIKO OTOGURO, MINORU OHNO, SIGERU KATAOKA,
TAKAFUMI OHMIZO and MITSU HARU AMARI

*Department of Prosthodontics II, Matsumoto Dental College
(Chief : Prof. M. Amari)*

Summary

A statistical study was made of 1146 crowns and 195 bridges which had been fabricated for 537 patients at the Prosthetic Clinic of Matsumoto Dental College from January through December 1980.

The results obtained were as follows :

- 1) Of patients, 45.62% were males and 54.38% were females ; and
- 2) 89.77% were between the ages of 20 and 50 years.
- 3) Crowns for the upper anterior segment numbered the most among the six segments.
- 4) Of crowns, 63.18% were fabricated as full cast crowns ; and
- 5) 84.38% were fabricated non-vital teeth.
- 6) Of bridges, 82.56% were fabricated as 3-unit bridges ; and
- 7) 92.82% were fabricated as 1-pontic bridges.
- 8) Bridge retainers for the lower premolar segment numbered the most among the six segments.
- 9) Of bridge retainers, 77.34% were fabricated as full cast crowns ; and
- 10) 60.98% were fabricated for vital teeth.
- 11) Of pontics, 39.62% were replaced for the lower molar segment.

- 12) In the comparison with similar observations in 1974 and 1977, the number of patients, crowns, and bridges sharply increased.

結 言

私たちの講座では、補綴物の装着頻度を調査し、その実態を知るとともに、学問や機器の発達による各年代での補綴様式や考え方、その推移などを把握することを目的として、これまでの先人の報告^{1-11,13-17,19-23,25,26)}を参考としながら、昭和48年松本歯科大学病院が開院して以来の単独冠および架工義歯の装着頻度を調査してきた。

すでに昭和49年と同52年における、それぞれ1か年の成績については患者の年齢別、性別、支台歯の生、失活歯別あるいは支台装置の種類別装着頻度などの調査結果を報告^{7,23)}したが、今回はさらに昭和55年1月から同年12月までの1か年間について同様の調査を行なったので報告する。

調査資料と項目

昭和55年1月より同年12月までの1か年間に松本歯科大学補綴診療科で製作、装着された単独冠1146個、および架工義歯195装置について、病院カルテ、補綴診療科カルテ、および材料センター材料支給伝票を資料として、それらの装着頻度を以下の項目にしたがって調査した。

A. 患者総数と地域別患者数

冠および架工義歯補綴を行なった患者の住所を塩尻市内、これを除く長野県内および長野県外とに区別し、その数を調査した。

B. 性別および年代別患者数

患者の年齢を20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代および80歳以上の8段階に分け、その数を調査した。

C. 単独冠および架工義歯の装着数

D. 単独冠について

1. 年代別装着数

患者の年齢を前記B項に準じて区別し、各年代ごとの装着数を調査した。

2. 性別装着数

3. 部位別装着数

装着部位を上、下顎別および前歯部、小臼歯部、大臼歯部の歯群別に分け、その数を調べるとともに、年代別装着数との関係を調査した。

4. 支台歯の生、失活歯別装着数

支台歯を生、失活歯に分類して装着数を調査するとともに、年代別および部位別装着数との関係を調べた。

5. 種類別装着数

単独冠の種類を全部鑄造冠、一部被覆冠、前装冠(既製陶歯前装冠、陶材溶着鑄造冠およびレジン前装冠に分類)、ジャケット冠(陶材およびレジンジャケット冠に分類)およびアタッチドタイプポストクラウン(以下継続歯と呼ぶ)に分類して、それらの装着数を調査するとともに年代別、部位別および性別装着数との関係を調べた。

6. 支台築造体について

支台築造体をキャストコア、レジンコア、アマルガムコア、セメントコアに分け、その築造数を調べると同時に、築造部位および単独冠の種類別築造数との関係を調査した。

E. 架工義歯について

1. 年代別装着数

前記B項に準じ、各年代における装着数を調べた。

2. 性別装着数

3. ユニット数別装着数

架工義歯をユニット数別に区分して調べ、同時に年代別装着数との関係を示した。

4. 架工歯数別装着数

架工歯数別に分類して、装着数を調査するとともに、年代別装着数との関係を調べた。

F. 架工義歯支台装置について

前記D項の単独冠の調査項目1~6について、性別装着数と年代別装着数との関係を除く同様の調査を行なった。

G. 架工歯の部位別装着数

架工歯を装着した部位について前記D項の3に準じて分類し、その装着数を調査するとともに年代別装着数との関係を調べた。

調 査 成 績

A. 患者総数と地域別患者数

表1に示すごとく塩尻市内在住者が過半数の297人(55.31%)を占め、長野県外者は、わずか

に5人(0.93%)であった。

B. 性別および年代別患者数

表2に示すように患者総数は537人(男245人, 女292人)で, そのうち30歳代が149人(男58人, 女91人)と最も多く, 以下, 40歳代, 20歳代の順に患者数が減少し, 80歳以上はわずかに男1人であった。20, 30, 40および50歳代の総数は, 482人で患者総数の90%弱を占めた。

C. 単独冠および架工義歯の装着数

単独冠は計1146個, 架工義歯は計195装置であった。

D. 単独冠について

1. 年代別装着数

表3に示すごとく, 最多装着年代は40歳代で装着数は358個(上顎177個, 下顎181個)を数え, 総数1146個中の31.24%を占めた。また, 20歳代から50歳代までの年代に装着された数は, 計1040個で全体の90%強を占めた。

2. 性別装着数

表7に示すように男よりも女における装着数が多く, 総数1146個中, 男432個(37.70%), 女714個(62.30%)であった。

3. 部位別装着数

表3に示すごとく, 上顎に642個, 下顎に504個装着され, そのうち上顎前歯部が266個(23.21%)と最も多く, 下顎前歯部が92個(8.03%)で最も少ない装着頻度であった。

4. 支台歯の生, 失活歯別装着数

表4および5に示すごとく, 失活歯総数が967歯(84.38%)で, 生活歯総数179歯(15.62%)の5倍強を数え, すべての部位および年代において失活歯数が生活歯数より多かった。

5. 単独冠の種類別装着数

表6, 7および8に示すごとく最も多く装着されたのは, 全部铸造冠で724個(63.18%)を数え,

表1：地域別患者数

地 域	昭和55年	昭和52年	昭和49年
塩 尻 市 内	297 (55.31)	183 (57.55)	73 (62.93)
長 野 県 内 (除・塩尻市内)	235 (43.76)	132 (41.51)	41 (35.34)
長 野 県 外	5 (0.93)	3 (0.94)	2 (1.72)
計	537 (100.00)	318 (100.00)	116 (100.00)

()%

表2：性別および年代別患者数

性	年 代 調 査 年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		男	5 (0.93)	57 (10.61)	58 (10.80)	52 (9.68)	44 (8.19)	21 (3.91)	7 (1.30)	1 (0.19)
女	昭52	4 (1.26)	29 (9.12)	35 (11.01)	40 (12.58)	29 (9.12)	10 (3.14)	3 (0.94)		150 (47.17)
	昭49	3 (2.59)	12 (10.34)	15 (12.93)	18 (15.52)	8 (6.90)	7 (6.03)			63 (54.31)
	昭55	9 (1.68)	58 (10.80)	91 (16.95)	84 (15.64)	38 (7.08)	10 (1.86)	2 (0.37)		292 (54.38)
計	昭52	5 (1.57)	60 (18.87)	53 (16.67)	24 (7.55)	15 (4.72)	7 (2.20)	3 (0.94)	1 (0.31)	168 (52.83)
	昭49	3 (2.59)	20 (17.24)	14 (12.07)	7 (6.03)	9 (7.76)				53 (45.69)
計	昭55	14 (2.61)	115 (21.42)	149 (27.75)	136 (25.33)	82 (15.27)	31 (5.77)	9 (1.68)	1 (0.19)	537 (100.00)
	昭52	9 (2.83)	89 (27.99)	88 (27.67)	64 (20.13)	44 (13.84)	17 (5.35)	6 (1.89)	1 (0.31)	318 (100.00)
	昭49	6 (5.17)	32 (27.59)	29 (25.00)	25 (21.55)	17 (14.66)	7 (6.03)			116 (100.00)

()%

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

表3：単独冠の年代別および部位別装着数

年代	調査年	部位								
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
20歳未満	昭55	19 (1.66)		4 (0.35)	23 (2.01)		1 (0.09)	5 (0.43)	6 (0.52)	29 (2.53)
	昭52	5 (0.97)	1 (0.19)	2 (0.39)	8 (1.56)		1 (0.19)	3 (0.58)	4 (0.78)	12 (2.33)
	昭49	9 (3.86)			9 (3.86)		1 (0.43)		1 (0.43)	10 (4.29)
20歳代	昭55	62 (5.41)	31 (2.71)	25 (2.18)	118 (10.30)	9 (0.79)	25 (2.18)	43 (3.74)	77 (6.72)	195 (17.02)
	昭52	34 (6.61)	26 (5.06)	16 (3.11)	76 (14.79)	12 (2.33)	25 (4.86)	32 (6.23)	69 (13.42)	145 (28.21)
	昭49	24 (10.30)	6 (2.58)	7 (3.00)	37 (15.88)		8 (3.43)	7 (3.00)	15 (6.44)	52 (22.32)
30歳代	昭55	72 (6.28)	51 (4.45)	50 (4.36)	173 (15.10)	7 (0.61)	58 (5.06)	66 (5.75)	131 (11.43)	304 (26.53)
	昭52	31 (6.03)	23 (4.47)	19 (3.70)	73 (14.20)	4 (0.78)	28 (5.45)	28 (5.45)	60 (11.67)	133 (25.88)
	昭49	12 (5.15)	11 (4.72)	3 (1.29)	26 (11.16)	2 (0.86)	9 (3.86)	11 (4.72)	22 (9.44)	48 (20.60)
40歳代	昭55	58 (5.06)	65 (5.67)	54 (4.71)	117 (15.45)	53 (4.62)	70 (6.11)	58 (5.06)	181 (15.79)	358 (31.24)
	昭52	16 (3.11)	22 (4.28)	18 (3.50)	56 (10.89)	2 (0.39)	24 (4.67)	16 (3.11)	42 (8.17)	98 (19.07)
	昭49	23 (9.87)	7 (3.00)	10 (4.29)	40 (17.17)	1 (0.43)	10 (4.29)	5 (2.15)	16 (6.87)	56 (24.03)
50歳代	昭55	34 (2.97)	45 (3.93)	22 (1.92)	101 (8.81)	17 (1.48)	34 (2.97)	31 (2.71)	82 (7.16)	183 (15.97)
	昭52	7 (1.36)	70 (3.89)	10 (1.95)	37 (7.20)	8 (1.56)	32 (6.23)	8 (1.56)	48 (9.34)	85 (16.54)
	昭49	10 (4.29)	7 (3.00)	5 (2.15)	22 (9.44)	6 (2.58)	12 (5.15)	7 (3.00)	25 (10.73)	47 (20.17)
60歳代	昭55	16 (1.40)	12 (1.05)	6 (0.52)	34 (2.47)	5 (0.43)	6 (0.52)	9 (0.79)	20 (1.74)	54 (4.71)
	昭52	7 (1.36)	8 (1.56)	4 (0.78)	19 (3.70)	4 (0.78)	6 (1.17)	1 (0.19)	11 (2.14)	30 (5.84)
	昭49	7 (3.00)	3 (1.29)	1 (0.43)	11 (4.72)	4 (1.72)	3 (1.29)	1 (0.43)	8 (3.43)	19 (18.15)
70歳代	昭55	5 (0.44)	5 (0.44)	6 (0.52)	16 (1.40)	1 (0.09)	3 (0.26)	1 (0.09)	5 (0.44)	21 (1.83)
	昭52	3 (0.58)			3 (0.58)	1 (0.19)	4 (0.78)	2 (0.39)	7 (1.36)	10 (1.95)
	昭49						1 (0.43)		1 (0.43)	1 (0.43)
80歳以上	昭55						1 (0.09)	1 (0.09)	2 (0.17)	2 (0.17)
	昭52									
	昭49									
計	昭55	266 (23.21)	209 (18.24)	167 (14.57)	642 (56.02)	92 (8.03)	198 (17.28)	214 (18.67)	504 (43.98)	1146 (100.00)
	昭52	103 (20.04)	100 (19.46)	69 (13.42)	272 (52.92)	31 (6.03)	121 (23.54)	90 (17.51)	242 (47.08)	514 (100.00)
	昭49	85 (36.48)	34 (14.89)	26 (11.16)	145 (62.23)	13 (5.58)	44 (18.88)	31 (13.30)	88 (37.77)	233 (100.00)

()%
 昭55：昭和55年
 昭52：昭和52年
 昭49：昭和49年

表4：単独冠支台歯の生・失活歯別および年代別装着数

支台歯の状態	調査年	年代							計	
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代		80歳以上
生活歯	昭55	2 (0.17)	32 (2.79)	43 (3.75)	57 (4.97)	33 (2.88)	6 (0.52)	6 (0.52)	179 (15.62)	
	昭52		20 (3.89)	18 (3.50)	25 (4.86)	20 (3.89)	7 (1.36)		90 (17.51)	
	昭49		15 (6.44)	11 (4.72)	18 (7.73)	9 (3.86)	4 (1.72)		57 (24.46)	
失活歯	昭55	27 (2.36)	163 (14.22)	261 (22.77)	301 (26.27)	150 (13.09)	48 (4.19)	15 (1.31)	2 (0.17)	967 (84.38)
	昭52	12 (2.33)	125 (24.32)	115 (22.37)	73 (14.20)	65 (12.65)	23 (4.47)	10 (1.95)	1 (0.19)	424 (82.49)
	昭49	10 (4.29)	37 (15.88)	37 (15.88)	38 (16.31)	15 (6.44)	1 (0.43)			176 (75.54)
計	昭55	29 (2.53)	195 (17.02)	304 (26.53)	358 (31.24)	183 (15.97)	54 (4.71)	21 (1.83)	2 (0.17)	1146 (100.00)
	昭52	12 (2.33)	145 (28.21)	133 (25.88)	98 (19.07)	85 (16.54)	30 (5.84)	10 (1.95)	1 (0.19)	514 (100.00)
	昭49	10 (4.29)	52 (22.32)	48 (20.60)	56 (24.03)	47 (20.17)	19 (8.15)	1 (0.43)		233 (100.00)

() %

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

表5：単独冠支台歯の生・失活歯別および部位別装着数

支台歯の状態	調査年	部位								
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8
生活歯	昭55	32 (2.79)	35 (3.05)	29 (2.53)	96 (8.38)	6 (0.52)	44 (3.84)	33 (2.88)	83 (7.24)	179 (15.62)
	昭52	10 (1.95)	12 (2.33)	13 (2.53)	35 (6.81)	5 (0.97)	32 (6.23)	18 (3.50)	55 (10.70)	90 (17.51)
	昭49	22 (9.44)	2 (0.86)	12 (5.15)	36 (15.45)	3 (1.29)	12 (5.15)	6 (2.58)	21 (9.01)	57 (24.46)
失格歯	昭55	234 (20.42)	174 (15.18)	138 (12.04)	546 (47.64)	86 (7.50)	154 (13.44)	181 (15.79)	421 (36.74)	967 (84.38)
	昭52	93 (18.09)	88 (17.12)	56 (10.89)	237 (46.11)	26 (5.06)	89 (17.32)	72 (14.01)	187 (36.38)	424 (82.49)
	昭49	63 (27.04)	32 (13.73)	14 (6.01)	109 (46.78)	10 (4.29)	32 (13.73)	25 (10.73)	67 (28.76)	176 (75.54)
計	昭55	266 (23.21)	209 (18.24)	167 (14.57)	642 (56.02)	92 (8.03)	198 (17.28)	214 (18.67)	504 (43.98)	1146 (100.00)
	昭52	103 (20.04)	100 (19.46)	69 (13.42)	272 (52.92)	31 (6.03)	121 (23.54)	90 (17.51)	242 (47.08)	514 (100.00)
	昭49	85 (36.48)	34 (14.59)	26 (11.16)	145 (62.23)	13 (5.58)	44 (18.88)	31 (13.30)	88 (37.77)	233 (100.00)

() %

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

表6：単独冠の種類別および年代別装着数

種類	調査年	年代								計
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
全部鑄造冠	昭55	7 (0.61)	100 (8.73)	215 (18.76)	229 (19.98)	123 (10.73)	33 (2.88)	15 (1.31)	2 (0.17)	724 (63.18)
	昭52	7 (1.36)	96 (18.68)	98 (19.07)	75 (14.59)	67 (13.04)	17 (13.31)	6 (1.17)	1 (0.19)	367 (71.40)
	昭49	1 (0.43)	25 (10.73)	24 (14.59)	32 (13.73)	31 (13.30)	6 (2.58)			129 (55.36)
前装冠	昭55	13 (1.13)	73 (6.37)	37 (3.23)	39 (3.40)	27 (2.36)				189 (16.49)
	昭52		24 (4.67)	13 (2.53)	10 (1.95)	6 (1.17)	7 (1.36)			60 (11.67)
	昭49	9 (3.86)	20 (8.58)	6 (2.58)	3 (1.29)	2 (0.86)	5 (2.15)			45 (19.31)
既製陶歯前装冠	昭52									
	昭49		4 (1.72)	3 (1.29)						7 (3.00)
	昭55		1 (0.09)	1 (0.09)	3 (0.26)	4 (0.35)				9 (0.78)
レジン前装冠	昭52		5 (0.97)	1 (0.19)	4 (0.78)	3 (0.58)	2 (0.39)			15 (2.92)
	昭49	5 (2.15)								5 (2.15)
	昭55	13 (1.13)	72 (6.28)	36 (3.14)	36 (3.14)	23 (2.01)				180 (15.71)
陶材溶着鑄造冠	昭52		19 (3.70)	12 (2.33)	6 (1.17)	3 (0.58)	5 (0.97)			45 (8.75)
	昭49	4 (1.72)	16 (6.87)	3 (1.29)	3 (1.29)	2 (0.86)	5 (2.15)			33 (14.16)
	昭55	7 (0.61)	12 (1.05)	40 (3.49)	61 (5.32)	29 (2.53)	20 (1.74)	5 (0.44)		174 (15.18)
ジャケット冠	昭52	5 (0.97)	15 (2.92)	20 (3.89)	8 (1.56)	9 (1.75)	5 (0.97)	1 (0.19)		63 (12.26)
	昭49		3 (1.29)	1 (0.43)	6 (2.58)	2 (0.86)				12 (5.15)
	昭55	7 (0.61)	12 (1.05)	40 (3.49)	61 (5.32)	29 (2.53)	20 (1.74)	5 (0.44)		174 (15.18)
レジンジャケット冠	昭52	5 (0.97)	15 (2.92)	20 (3.89)	8 (1.56)	9 (1.75)	5 (0.97)	1 (0.19)		63 (12.26)
	昭49		3 (1.29)		6 (2.58)	2 (0.86)				11 (4.72)
	昭55									
ポーセレンジャケット冠	昭52									
	昭49			1 (0.43)						1 (0.43)
	昭55			2 (0.17)	2 (0.17)					4 (0.35)
継続歯	昭52		1 (0.19)	2 (0.39)	2 (0.39)	1 (0.19)				6 (1.17)
	昭49		2 (0.86)	7 (3.00)	11 (4.72)	6 (2.58)	5 (2.15)			31 (13.30)
	昭55	2 (0.17)	10 (0.87)	10 (0.87)	27 (2.36)	4 (0.35)	1 (0.09)	1 (0.09)		55 (4.80)
一部被覆冠	昭52		9 (1.75)		3 (0.58)	2 (0.39)	1 (0.19)	3 (0.58)		18 (3.50)
	昭49		2 (0.86)		4 (1.72)	6 (2.58)	3 (1.29)	1 (0.43)		16 (6.87)
	昭55	29 (2.53)	195 (17.02)	304 (26.53)	358 (31.24)	183 (15.97)	54 (4.71)	21 (1.83)	2 (0.17)	1146 (100.00)
計	昭52	12 (2.33)	145 (28.21)	133 (25.88)	98 (19.07)	85 (16.54)	30 (5.84)	10 (1.95)	1 (0.19)	514 (100.00)
	昭49	10 (4.29)	52 (22.32)	48 (20.60)	56 (24.03)	47 (20.17)	19 (8.15)	1 (0.43)		233 (100.00)

()%
 昭55：昭和55年
 昭52：昭和52年
 昭49：昭和49年

次いで陶材溶着鑄造冠の180個(15.71%)、レジンジャケット冠の174個(15.18%)の順であった。ほとんどの年代において全部鑄造冠の装着頻度が最も多かったが、20歳未満と20歳代においては陶材溶着鑄造冠がそれぞれ13個(1.13%)、72個(6.28%)と全部鑄造冠に勝るか、またはこれに相当する装着数を示した。また、小、大白歯部では、全部鑄造冠の占める割合が圧倒的に多く724個(63.18%)を数えたが、前歯部ではレジンジャケット冠が173個(15.10%)で最も多かった。

6. 支台築造体について

表9, 10に示すように、支台築造を施した支台歯総数929歯中、キャストコアは854個(91.93%)と圧倒的に多く、他は少数ではあるが、以下アマルガム、セメント、レジンコアの順であった。レジンコアは上顎大白歯部に1個、下顎小白歯部に1個の計2個(0.22%)みられるのみであった。また種類別にみた場合でも一部被覆冠などを除く他のどの補綴物においても、キャストコアによる築造が最も多かった。

E. 架工義歯について

1. 年代別装着数

表11に示すように最多装着年代は20歳代で53個を数え、総数195個中27.18%を占めた。20, 30, 40および50歳代における装着率が高く、全体の93.33%を占めた。

2. 性別装着数

表12に示すように195装置中、110装置が男に、85装置が女に装着された。

3. 架工義歯ユニット数別装着数

表11に示すように、架工義歯総数195装置中3ユニットのものが161装置(82.56%)で最も多く、ユニット数が最も多かったのは8ユニットで、1装置(0.51%)みられた。20, 30, 40および50歳代で3ユニットのものが155装置(79.49%)を占めた。

4. 架工歯数別装着数

表13に示すように架工歯1個のものが181装置(92.82%)を占めた。また1装置で最も多い架工歯数は4個であった。20, 30, 40, および50歳代で架工歯1歯のものは170装置を数え、総数の約87%を占めた。

F. 架工義歯の支台装置について

1. 年代別装着数

表7：単独冠の種類別および性別装着数

種類	調査年	性別		計
		男	女	
全部鑄造冠	昭55	300 (26.18)	424 (37.00)	724 (63.18)
	昭52	167 (32.49)	200 (38.91)	367 (71.40)
	昭49	73 (31.33)	56 (24.03)	129 (55.36)
前装冠	昭55	60 (5.24)	129 (11.26)	189 (16.50)
	昭52	20 (3.89)	40 (7.78)	60 (11.67)
	昭49	24 (10.30)	21 (9.01)	45 (19.31)
既製陶歯前装冠	昭55			
	昭52			
	昭49	3 (1.29)	4 (1.72)	7 (3.00)
レジン前装冠	昭55	4 (0.35)	5 (0.44)	9 (0.78)
	昭52	4 (0.78)	11 (2.14)	15 (2.92)
	昭49		5 (2.15)	5 (2.15)
陶材溶着鑄造冠	昭55	56 (4.89)	124 (10.82)	180 (15.71)
	昭52	16 (3.11)	29 (5.64)	45 (8.75)
	昭49	21 (9.01)	12 (5.15)	33 (14.16)
ジャケット冠	昭55	51 (4.45)	123 (10.73)	174 (15.18)
	昭52	26 (5.06)	37 (7.20)	63 (12.26)
	昭49	9 (3.86)	3 (1.29)	12 (5.15)
レジンジャケット冠	昭55	51 (4.45)	123 (10.73)	174 (15.18)
	昭52	26 (5.06)	37 (7.20)	63 (12.26)
	昭49	8 (3.43)	3 (1.29)	11 (4.72)
ポーセレンジャケット冠	昭55			
	昭52			
	昭49	1 (0.43)		1 (0.43)
継続歯	昭55		4 (0.35)	4 (0.35)
	昭52	2 (0.39)	4 (0.78)	6 (1.17)
	昭49	18 (7.73)	13 (5.58)	31 (13.30)
一部被覆冠	昭55	21 (1.83)	34 (2.96)	55 (4.79)
	昭52	13 (2.53)	5 (0.97)	18 (3.50)
	昭49	12 (5.15)	4 (1.72)	16 (6.87)
計	昭55	432 (37.70)	714 (62.30)	1146 (100.00)
	昭52	228 (44.36)	286 (55.64)	514 (100.00)
	昭49	136 (58.37)	97 (41.63)	233 (100.00)

()%
昭55：昭和55年
昭52：昭和52年
昭49：昭和49年

表8：単独冠の種類別および部位別装着数

種類	部位 調査年	3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		$\frac{8+8}{8+8}$			
全部 鑄造冠	昭55		183 (15.97)	159 (13.87)	342 (29.84)					179 (15.62)	203 (17.71)	382 (33.33)	724 (63.18)								
	昭52		91 (17.70)	69 (13.42)	160 (31.13)	1 (0.19)				116 (22.57)	90 (17.51)	207 (40.27)	367 (71.40)								
	昭49		32 (13.73)	26 (11.16)	58 (24.89)					40 (17.17)	31 (13.30)	71 (30.47)	129 (55.36)								
前 装 冠	昭55	121 (10.55)	17 (1.48)	3 (0.26)	141 (12.30)	29 (2.53)	13 (1.13)	6 (0.52)	48 (4.19)	189 (16.49)											
	昭52	42 (8.17)	7 (1.36)		49 (9.53)	6 (1.17)	5 (0.97)		11 (2.14)	60 (11.67)											
	昭49	43 (18.45)	1 (0.43)		44 (18.88)		1 (0.43)		1 (0.43)	45 (19.31)											
既製陶歯前装冠	昭55																				
	昭52																				
	昭49	7 (3.00)			7 (3.00)					7 (3.00)											
レジ前装冠	昭55	2 (0.17)			2 (0.17)	7 (0.61)						7 (0.61)	9 (0.78)								
	昭52	13 (2.53)			13 (2.53)				2 (0.39)			2 (0.39)	15 (2.92)								
	昭49	5 (2.15)			5 (2.15)								5 (2.15)								
陶材溶着鑄造冠	昭55	119 (10.38)	17 (1.48)	3 (0.26)	139 (12.13)	22 (1.92)	13 (1.13)	6 (0.52)	41 (3.58)	180 (15.71)											
	昭52	29 (5.64)	7 (1.36)		36 (7.00)	6 (1.17)	3 (0.58)		9 (1.75)	45 (8.75)											
	昭49	31 (13.30)	1 (0.43)		32 (13.73)		1 (0.43)		1 (0.43)	33 (14.16)											
ジャケット冠	昭55	129 (11.26)	1 (0.09)		130 (11.34)	44 (3.84)			44 (3.84)	174 (15.18)											
	昭52	49 (9.53)			49 (9.53)	14 (2.72)			14 (2.72)	63 (12.26)											
	昭49	10 (4.29)			10 (4.29)	2 (0.86)			2 (0.86)	12 (5.15)											
レジ ジャケット冠	昭55	129 (11.26)	1 (0.09)		130 (11.34)	44 (3.84)			44 (3.84)	174 (15.18)											
	昭52	49 (9.53)			49 (9.53)	14 (2.72)			14 (2.72)	63 (12.26)											
	昭49	9 (3.86)			9 (3.86)	2 (0.86)			2 (0.86)	11 (4.72)											
ポーセレン ジャケット冠	昭55																				
	昭52																				
	昭49	1 (0.43)			1 (0.43)					1 (0.43)											
継 続 歯	昭55			2 (0.17)	2 (0.17)						2 (0.17)	2 (0.17)	4 (0.35)								
	昭52	4 (0.78)			4 (0.78)	2 (0.39)						2 (0.39)	6 (1.17)								
	昭49	24 (10.30)			24 (10.30)	7 (3.00)						7 (3.00)	31 (13.30)								
一 部 被 覆 冠	昭55	16 (1.40)	8 (0.70)	3 (0.26)	27 (2.35)	19 (1.66)	6 (0.51)	3 (0.26)	28 (2.45)	55 (4.80)											
	昭52	8 (1.56)	2 (0.39)		10 (1.95)	8 (1.56)			8 (1.56)	18 (3.50)											
	昭49	8 (3.43)	1 (0.43)		9 (3.86)	4 (1.72)	3 (1.29)		7 (3.00)	16 (6.87)											
計	昭55	266 (23.21)	209 (18.24)	167 (14.57)	642 (56.02)	92 (8.03)	198 (17.28)	214 (18.67)	504 (43.98)	1146 (100.00)											
	昭52	103 (20.04)	100 (19.46)	69 (13.42)	272 (52.92)	31 (6.03)	121 (23.54)	90 (17.51)	242 (47.08)	514 (100.00)											
	昭49	85 (36.48)	34 (14.59)	26 (11.16)	145 (62.23)	13 (5.58)	44 (18.88)	31 (13.30)	88 (37.77)	233 (100.00)											

()%
 昭55：昭和55年
 昭52：昭和52年
 昭49：昭和49年

表9：単独冠支台築造体の種類別および部位別築造数

種類	部位 調査年	3+3		5+4		8-6 6-8		8+8		3+3		5+4		8-6 6-8		8+8		8+8			
キャスト コア	昭55	230 (23.68)	162 (17.44)	116 (12.49)	498 (53.61)	67 (7.21)	138 (14.85)	151 (16.25)	356 (38.32)	854 (91.93)											
	昭52	80 (19.28)	82 (19.76)	54 (13.01)	216 (22.05)	16 (3.86)	85 (20.48)	64 (15.42)	165 (39.76)	381 (91.81)											
	昭49	34 (23.45)	28 (19.31)	10 (6.90)	72 (49.66)	1 (0.69)	29 (20.00)	20 (13.79)	50 (34.48)	122 (84.14)											
アマルガム コア	昭55	2 (0.22)	7 (0.75)	14 (1.51)	23 (2.48)		8 (0.86)	19 (2.05)	27 (2.91)	50 (5.38)											
	昭52		4 (0.96)	1 (0.24)	5 (1.20)		1 (0.24)	1 (0.24)	2 (0.48)	7 (1.69)											
	昭49						1 (0.69)	1 (0.69)	2 (1.38)	2 (1.38)											
レジ ン コア	昭55			1 (0.11)	1 (0.11)		1 (0.11)		1 (0.11)	2 (0.22)											
	昭52																				
	昭49																				
セメント コア	昭55		4 (0.43)	5 (0.54)	9 (0.97)		5 (0.54)	9 (0.97)	14 (1.51)	23 (2.48)											
	昭52	6 (1.45)	2 (0.48)	1 (0.24)	9 (2.17)	8 (1.93)	3 (0.72)	7 (1.69)	18 (4.34)	27 (6.51)											
	昭49	5 (3.45)	4 (2.76)	4 (2.76)	13 (8.97)	2 (1.38)	2 (1.38)	4 (2.76)	8 (5.52)	21 (14.48)											
計	昭55	222 (23.90)	173 (18.62)	136 (14.64)	531 (57.16)	67 (7.21)	152 (16.36)	179 (19.27)	398 (42.84)	929 (100.00)											
	昭52	86 (20.72)	88 (21.20)	56 (13.49)	230 (55.42)	24 (5.78)	89 (21.45)	72 (17.35)	185 (44.58)	415 (100.00)											
	昭49	39 (26.90)	32 (22.07)	14 (9.66)	85 (58.62)	3 (2.07)	32 (22.07)	25 (17.24)	60 (41.39)	145 (100.00)											

() %

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

表14に示すように最多装着年代は20歳代で以下30歳代、40歳代、50歳代と続き、これらを合計すると全体の支台装置数428個中の395個(92.29%)を占めた。

2. 性別装着数

表18に示すように男が238個(55.61%)を占め、女190個(44.39%)より多かった。

3. 部位別装着数

表19に示すように、下顎に装着された頻度が上顎よりも約8%多く(上顎197個、下顎231個)、最多装着部位は下顎小白歯部の110個(25.70%)で、

最も少なかった部位は下顎前歯部の14個(3.27%)であった。上下顎とも小、大白歯部に比べて、前歯部における装着頻度が少なかった。

4. 支台歯の生、失活歯別装着数

表15および16に示すごとく、生活歯数が261歯(60.98%)で失活歯数167歯(39.02%)より多かった。これらを部位別にみると、すべての部位において生活歯数が失活歯数より多かった。また年代別にみると20、30および40歳代で生活歯数が失活歯数よりも多く、その他の年代では失活歯数が多く、とくに20歳代では、その差が著しく、生活歯

表10: 単独冠支台築造体の種類別および単独冠の種類別築造数

築造体	単独冠 調査年	全部 鑄造冠	前 装 冠	既 製 前 装 冠 陶 材 冠	レ ジ ン 前 装 冠	陶 材 鑄 造 冠 溶 着 冠	ジ ヤ ゲ ット 冠	レ ジ ン ジ ヤ ゲ ット 冠	ポ ー セ レン ジ ヤ ゲ ット 冠	継 続 歯	一 部 被 覆 冠	計
		キャスト コア	昭55 昭52 昭49	545 (58.67)	137 (14.75)		9 (0.97)	128 (13.78)	166 (17.87)	166 (17.87)		
		281 (67.71)	39 (9.40)		12 (2.89)	27 (6.51)	58 (13.93)	58 (13.93)			3 (0.72)	381 (91.81)
		83 (57.24)	29 (20.00)	5 (3.45)	3 (2.07)	21 (14.48)	8 (5.52)	8 (5.52)			2 (1.38)	122 (84.14)
アマルガム コア	昭55 昭52 昭49	46 (4.95)	1 (0.11)			1 (0.11)	2 (0.22)	2 (0.22)			1 (0.11)	50 (5.38)
		7 (1.69)										7 (1.69)
		2 (1.38)										2 (1.38)
レジン コア	昭55 昭52 昭49	2 (0.22)										2 (0.22)
セメント コア	昭55 昭52 昭49	18 (1.94)	3 (0.32)			3 (0.32)					2 (0.22)	23 (2.48)
		11 (2.65)	5 (1.20)			5 (1.20)	1 (0.24)	1 (0.24)			10 (2.41)	27 (6.51)
		16 (11.03)	2 (1.38)			2 (1.38)	1 (0.69)	1 (0.69)			2 (1.38)	21 (14.48)
計	昭55 昭52 昭49	611 (65.77)	141 (15.18)		9 (0.97)	132 (14.21)	168 (18.08)	168 (18.08)			9 (0.97)	929 (100.00)
		299 (72.05)	44 (10.60)		12 (2.89)	32 (7.71)	59 (14.22)	59 (14.22)			13 (3.13)	415 (100.00)
		101 (69.66)	31 (21.38)	5 (3.45)	3 (2.07)	23 (15.86)	9 (6.21)	9 (6.21)			4 (2.76)	145 (100.00)

() %
昭55: 昭和55年
昭52: 昭和52年
昭49: 昭和49年

の97歯(22.66%)に比較すると、失活歯21歯(4.91%)と少数であった。

5. 支台装置の種類別装着数

表17, 18, 19に示すように、単独冠と同じく全部鑄造冠が331個(77.34%)と最多で、陶材溶着鑄造冠61個(14.25%)、一部被覆冠34個(7.94%)がこれに次いだ。陶材溶着鑄造冠は20歳代が最も多く22個(5.14%)を占めた。小、大白歯部は全部鑄造冠が、また前歯部は陶材溶着鑄造冠の装着頻度が多かった。

6. 支台築造体について

表20, 21および22に示すごとく支台築造を施した架工義歯の支台数165個のうち、キャストコアは139個(84.24%)を数えて最も多く、レジンコアはみられなかった。キャストコア以外の築造体については、とくに上顎よりも下顎の築造頻度が多かった。単独冠と同様いずれの年代においてもキャストコアの占める割合が多く、アマルガムコア、セメントコアは全部鑄造冠以外の支台築造には使用されなかった。

表11：架工義歯の年代別およびユニット数別装着数

年代	調査年	ユニット数						計
		3	4	5	6	7	8	
20歳未満	昭 55	2 (1.03)						2 (1.03)
	昭 52	2 (1.87)						2 (1.87)
	昭 49	4 (8.33)						4 (8.33)
20歳代	昭 55	42 (21.54)	6 (3.08)	3 (1.54)	1 (0.51)	1 (0.51)		53 (27.18)
	昭 52	34 (31.78)	4 (3.74)	1 (0.93)	1 (0.93)			40 (37.38)
	昭 49	8 (16.67)	4 (8.33)	2 (4.17)				14 (29.17)
30歳代	昭 55	48 (24.62)	2 (1.03)		1 (0.51)			51 (26.15)
	昭 52	31 (28.97)	4 (3.74)					35 (32.71)
	昭 49	10 (20.83)	1 (2.08)	3 (6.25)				14 (29.17)
40歳代	昭 55	39 (20.00)	6 (3.08)				1 (0.51)	46 (23.59)
	昭 52	12 (11.21)	1 (0.93)		1 (0.93)			14 (13.08)
	昭 49	5 (10.42)	1 (2.08)					6 (12.50)
50歳代	昭 55	26 (13.33)	2 (1.03)	3 (1.54)	1 (0.51)			32 (16.41)
	昭 52	7 (6.54)		1 (0.93)	2 (1.87)			10 (9.35)
	昭 49	4 (8.33)	2 (4.17)	4 (8.33)				10 (20.83)
60歳代	昭 55	3 (1.54)	2 (1.03)	1 (0.51)				6 (3.08)
	昭 52	2 (1.87)	1 (0.93)	1 (0.93)				4 (3.74)
	昭 49							
70歳代	昭 55	1 (0.51)	3 (1.54)	1 (0.51)				5 (2.56)
	昭 52	2 (1.87)						2 (1.87)
	昭 49							
80歳以上	昭 55							
	昭 52							
	昭 49							
計	昭 55	161 (82.56)	21 (10.77)	8 (4.10)	3 (1.54)	1 (0.51)	1 (0.51)	195 (100.00)
	昭 52	90 (84.11)	10 (9.35)	3 (2.80)	4 (3.74)			107 (100.00)
	昭 49	31 (64.58)	8 (16.67)	9 (18.75)				48 (100.00)

() %

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

表12: 架工義歯と性別

調査年	性別		計
	男	女	
昭 55	110 (56.41)	85 (43.59)	195 (100.00)
昭 52	54 (50.47)	53 (49.53)	107 (100.00)
昭 49	30 (62.50)	18 (37.50)	48 (100.00)

()%
昭55: 昭和55年
昭52: 昭和52年
昭49: 昭和49年

G. 架工歯について

表22に表すように、架工歯総数212個中、下顎大臼歯部が84個(39.62%)と最も多く、下顎前歯部が7個(3.30%)と最少数であった。また、年代別にみると20、30および40歳代の装着率が高かった

考 察

今回の報告は、昭和55年1月から同年12月までの1か年間に松本歯科大学病院補綴診療科で装着された単独冠1146個および架工義歯195装置について病院歯科診療録、補綴科院内カルテおよび材料支給伝票を資料として、患者総数と地域別患者数、性別と年代別患者数、単独冠と架工義歯の装着総数など7項目について装着頻度を調査したものである。以下、調査成績を総括するとともに、これまでに報告^{7,23)}した成績とも比較しながら考察することとする。

患者総数は537人で、昭和49年²³⁾の116人、昭和52年⁷⁾の318人と比べると調査年毎に増加傾向にあった。男女比については女のほうが男よりも10%程多く、昭和52年⁷⁾と傾向的な差はみられなかった。これまでの調査^{7,23)}と同様に20歳代から50歳代までに全体の約9割が含まれ、なかでも20歳代、30歳代、40歳代の占める割合は約75%を数えた。また厚生省のまとめた昭和56年の「歯科疾患実態調査報告」¹⁸⁾によると20歳から59歳までの有齲歯者数は、有齲歯者総数の6割強を占め、さらに20歳から49歳までの一人当たり平均喪失歯数が0.40歯~6.12歯であったことが報告されている。こうしたことを考え合わせると、改めてこれらの年代が冠・架工義歯の施術対象年齢であることがわかった。

表13: 架工義歯の架工歯数別および年代別装着数

年代	架工歯数	架工歯数					計
		1	2	3	4	5	
20歳未満	昭55	2 (1.03)					2 (1.03)
	昭52	2 (1.87)					2 (1.87)
	昭49	4 (8.33)					4 (8.33)
20歳代	昭55	47 (24.10)	5 (2.56)	1 (0.51)			53 (27.18)
	昭52	36 (33.64)	4 (3.74)				40 (37.38)
	昭49	9 (18.75)	5 (10.42)				14 (29.17)
30歳代	昭55	50 (25.64)	1 (0.51)				51 (26.15)
	昭52	32 (29.91)	3 (2.80)				35 (32.71)
	昭49	11 (22.92)	3 (6.25)				14 (29.17)
40歳代	昭55	45 (23.08)			1 (0.51)		46 (23.59)
	昭52	12 (11.21)	1 (0.93)	1 (0.93)			14 (13.08)
	昭49	5 (10.42)	1 (2.08)				6 (12.50)
50歳代	昭55	28 (14.36)	4 (2.05)				32 (16.41)
	昭52	8 (7.48)	1 (0.93)		1 (0.93)		10 (9.35)
	昭49	5 (10.42)	5 (10.42)				10 (20.83)
60歳代	昭55	5 (2.56)	1 (0.51)				6 (3.08)
	昭52	3 (2.80)	1 (0.93)				4 (3.74)
	昭49						
70歳代	昭55	4 (2.05)	1 (0.51)				5 (2.56)
	昭52	2 (1.87)					2 (1.87)
	昭49						
80歳以上	昭55						
	昭52						
	昭49						
計	昭55	181 (92.82)	12 (6.15)	1 (0.51)	1 (0.51)		195 (100.00)
	昭52	95 (88.79)	10 (9.35)	1 (0.93)	1 (0.93)		107 (100.00)
	昭49	34 (70.83)	14 (29.17)				48 (100.00)

()%
昭55: 昭和55年
昭52: 昭和52年
昭49: 昭和49年

表14：架工義歯支台装置の年代別および部位別装着数

年代	部位 調査年	3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		8+8	
		昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52
20歳未満	昭55	2 (0.47)				2 (0.47)			1 (0.23)		1 (0.23)			2 (0.47)		4 (0.93)			
	昭52		1 (0.44)	1 (0.44)		2 (0.88)			1 (0.44)		1 (0.44)			2 (0.88)		4 (1.75)			
	昭49		2 (1.85)	2 (1.85)		4 (3.70)			2 (1.85)		2 (1.85)			4 (3.70)		8 (7.41)			
20歳代	昭55	11 (2.57)	17 (3.97)	17 (3.97)		45 (10.51)	3 (0.70)	34 (7.94)	36 (8.41)		73 (17.06)	118 (27.57)							
	昭52	9 (3.95)	16 (7.02)	12 (5.26)		37 (16.23)		25 (10.96)	24 (10.53)		49 (21.49)	86 (37.72)							
	昭49	9 (8.33)	5 (4.63)	4 (3.70)		18 (16.67)		7 (6.48)	6 (5.56)		13 (12.04)	31 (28.70)							
30歳代	昭55	12 (2.80)	20 (4.67)	17 (3.97)		49 (11.45)		27 (6.31)	30 (7.01)		57 (13.32)	106 (24.77)							
	昭52	10 (2.80)	12 (5.26)	11 (4.82)		33 (14.47)	3 (1.32)	17 (7.46)	18 (7.89)		38 (16.67)	71 (31.14)							
	昭49	10 (9.26)	6 (5.56)	5 (4.63)		21 (19.44)		5 (4.63)	6 (5.56)		11 (10.19)	32 (29.63)							
40歳代	昭55	3 (0.70)	26 (6.07)	27 (6.31)		56 (13.08)	7 (1.64)	22 (5.14)	15 (3.50)		44 (10.28)	100 (23.36)							
	昭52	6 (2.63)	3 (1.32)	5 (2.19)		14 (6.14)	3 (1.32)	5 (2.19)	7 (3.07)		15 (6.58)	29 (12.72)							
	昭49	4 (3.70)	2 (1.85)	2 (1.85)		8 (7.41)		2 (1.85)	2 (1.85)		4 (3.70)	12 (11.11)							
50歳代	昭55	7 (1.64)	11 (2.57)	10 (2.34)		28 (6.54)	1 (0.23)	22 (5.14)	20 (4.67)		43 (10.05)	71 (16.57)							
	昭52	3 (1.32)	6 (2.63)	8 (3.51)		17 (7.46)	6 (2.63)	1 (0.44)	1 (0.44)		7 (3.07)	24 (10.53)							
	昭49	2 (1.85)	3 (2.78)	4 (3.70)		9 (8.33)	2 (1.85)	7 (6.48)	7 (6.48)		16 (14.81)	25 (23.15)							
60歳代	昭55	3 (0.70)	3 (0.70)	3 (0.70)		9 (2.10)	3 (0.70)	1 (0.23)	2 (0.47)		6 (1.40)	15 (3.50)							
	昭52	3 (1.32)	2 (0.88)	2 (0.88)		7 (3.07)		2 (0.88)	1 (0.44)		3 (1.32)	10 (4.39)							
	昭49																		
70歳代	昭55	3 (0.70)	4 (0.93)	1 (0.23)		8 (1.87)		3 (0.70)	3 (0.70)		6 (1.40)	14 (3.27)							
	昭52							2 (0.88)	2 (0.88)		4 (1.75)	4 (1.75)							
	昭49																		
80歳以上	昭55																		
	昭52																		
	昭49																		
計	昭55	41 (9.58)	81 (18.93)	75 (12.52)		197 (46.03)	14 (3.27)	110 (25.70)	107 (25.00)		231 (53.97)	428 (100.00)							
	昭52	31 (13.60)	40 (17.54)	39 (17.11)		110 (48.25)	12 (5.26)	53 (23.25)	53 (23.25)		118 (51.75)	228 (100.00)							
	昭49	25 (22.15)	18 (16.67)	17 (15.74)		60 (55.56)	2 (1.85)	23 (21.30)	23 (21.30)		48 (44.44)	108 (100.00)							

()%
 昭55：昭和55年
 昭52：昭和52年
 昭49：昭和49年

表15: 架工義歯支台歯の生・失活歯別および年代別装着数

支台歯 の状態	年代 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		生活歯	昭55 1 (0.23)	97 (22.66)	66 (15.42)	56 (13.08)	35 (8.18)	4 (0.93)	2 (0.47)	
	昭52	4 (1.75)	52 (22.81)	47 (20.61)	19 (8.33)	20 (8.77)	5 (2.19)	4 (1.75)	151 (66.23)	
	昭49	4 (3.70)	19 (17.59)	19 (17.59)	7 (6.48)	12 (11.11)			61 (56.48)	
失活歯	昭55	3 (0.70)	21 (4.91)	40 (9.35)	44 (10.28)	36 (8.41)	11 (2.57)	12 (2.80)	167 (39.02)	
	昭52		34 (14.91)	24 (10.53)	10 (4.39)	4 (1.75)	5 (2.19)		77 (33.77)	
	昭49	4 (3.70)	12 (11.11)	13 (12.04)	5 (4.63)	13 (12.04)			47 (43.52)	
計	昭55	4 (0.93)	118 (27.57)	106 (24.77)	100 (23.36)	71 (16.59)	15 (3.50)	14 (3.27)	428 (100.00)	
	昭52	4 (1.75)	86 (37.72)	71 (31.14)	29 (12.72)	24 (10.53)	10 (4.39)	4 (1.75)	228 (100.00)	
	昭49	8 (7.41)	31 (28.70)	32 (29.63)	12 (11.11)	25 (23.15)			108 (100.00)	

()%
昭55: 昭和55年
昭52: 昭和52年
昭49: 昭和49年

表16: 架工義歯支台歯の生・失活歯別および部位別装着数

支台歯 の状態	年代 調査年	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8
		生活歯	昭55 26 (6.07)	50 (11.68)	50 (11.68)	126 (29.44)	10 (2.34)	65 (15.17)	60 (14.02)	135 (31.54)
	昭52	16 (7.02)	26 (11.40)	24 (10.53)	66 (28.95)	10 (4.39)	41 (17.98)	34 (14.91)	85 (37.28)	151 (66.23)
	昭49	18 (16.67)	10 (9.26)	11 (10.19)	39 (36.11)	2 (1.85)	11 (10.19)	9 (8.33)	22 (20.37)	61 (56.48)
失活歯	昭55	15 (3.50)	30 (7.01)	26 (6.07)	71 (16.59)	4 (0.93)	45 (10.51)	47 (10.98)	96 (22.43)	167 (39.02)
	昭52	15 (6.58)	14 (6.14)	15 (6.58)	44 (19.30)	2 (0.88)	12 (5.26)	19 (8.33)	33 (14.47)	77 (33.77)
	昭49	7 (6.48)	8 (7.41)	6 (5.56)	21 (19.44)		12 (11.11)	14 (12.96)	26 (24.07)	47 (43.52)
計	昭55	41 (9.58)	80 (18.69)	76 (17.76)	197 (46.03)	14 (3.27)	110 (25.70)	107 (25.00)	231 (53.97)	428 (100.00)
	昭52	31 (13.60)	40 (17.54)	39 (17.11)	110 (48.25)	12 (5.26)	53 (23.25)	53 (23.25)	118 (51.75)	228 (100.00)
	昭49	25 (23.15)	18 (16.67)	17 (15.74)	60 (55.56)	2 (1.85)	23 (21.30)	23 (21.30)	48 (44.44)	108 (100.00)

()%
昭55: 昭和55年
昭52: 昭和52年
昭49: 昭和49年

表17：架工義歯支台装置の種類別および年代別装着数

種類	年代 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
全部 鑄造冠	昭55		83 (19.39)	89 (20.79)	80 (18.69)	61 (14.25)	9 (2.10)	9 (2.10)		331 (77.34)
	昭52	4 (1.75)	71 (31.14)	51 (22.37)	19 (8.33)	13 (57.70)	7 (3.07)	4 (1.75)		169 (74.12)
	昭49	8 (7.41)	19 (17.59)	20 (18.51)	7 (6.48)	20 (18.51)				74 (68.52)
	昭55	4 (0.93)	23 (5.37)	6 (1.40)	10 (2.34)	8 (1.87)	6 (1.40)	5 (1.17)		62 (14.48)
前 装 冠	昭52		13 (5.70)	8 (3.51)	8 (3.51)	5 (2.19)	3 (1.31)			37 (16.23)
	昭49		7 (6.48)	6 (5.56)	2 (1.85)					15 (13.89)
	昭55									
	昭52			2 (0.88)						2 (0.88)
既製陶歯前装冠	昭49		3 (2.78)							3 (2.78)
	昭55		1 (0.23)							1 (0.23)
	昭52		5 (2.19)	2 (0.88)		3 (1.32)	1 (0.44)			11 (4.82)
	昭49			4 (3.70)						4 (3.70)
レジン前装冠	昭55	4 (0.93)	22 (5.14)	6 (1.40)	10 (2.34)	8 (1.87)	6 (1.40)	5 (1.17)		61 (14.25)
	昭52		8 (3.51)	4 (1.75)	8 (3.51)	2 (0.88)	2 (0.88)			24 (10.53)
	昭49		4 (3.70)	2 (1.85)	2 (1.85)					8 (7.41)
	昭55		1 (0.23)							1 (0.23)
ジャケット冠	昭52									
	昭49									
	昭55									
	昭52			1 (0.23)						1 (0.23)
レジン ジャケット冠	昭49									
	昭55									
	昭52									
	昭49									
ポーセレン ジャケット冠	昭55									
	昭52									
	昭49									
	昭55									
継 続 歯	昭52			2 (0.88)						2 (0.88)
	昭49				1 (0.93)	1 (0.93)				2 (1.85)
	昭55		11 (2.57)	11 (2.57)	10 (2.34)	2 (0.46)				34 (7.94)
	昭52		2 (0.88)	10 (4.39)	2 (0.88)	6 (2.63)				20 (8.77)
一 部 被 覆 冠	昭49		5 (4.63)	6 (5.56)	2 (1.85)	4 (3.70)				12 (15.74)
	昭55	4 (0.93)	118 (27.57)	106 (24.77)	100 (23.36)	71 (16.59)	15 (3.50)	14 (3.27)		428 (100.00)
	昭52	4 (1.75)	86 (37.72)	71 (31.14)	29 (12.72)	24 (10.53)	10 (4.39)	4 (1.75)		228 (100.00)
	昭49	8 (7.41)	31 (28.70)	32 (29.63)	11 (11.11)	25 (23.15)				108 (100.00)

()%

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

表18：架工義歯の種類別および性別装着数

種類	調査年	性別		
		男	女	計
全部 鑄造冠	昭55	182 (42.52)	149 (34.81)	331 (77.34)
	昭52	82 (35.96)	87 (38.16)	169 (74.12)
	昭49	49 (45.37)	25 (23.15)	74 (68.52)
	昭55	32 (7.48)	30 (7.01)	62 (14.48)
前 装 冠	昭52	20 (8.77)	17 (7.46)	37 (16.23)
	昭49	3 (2.78)	12 (11.11)	15 (13.89)
	昭55			
既製陶歯前装冠	昭52	2 (0.88)		2 (0.88)
	昭49		3 (2.78)	3 (2.78)
	昭55		1 (0.23)	1 (0.23)
レジン前装冠	昭52	2 (0.88)	9 (3.95)	11 (4.83)
	昭49	1 (0.93)	3 (2.78)	4 (3.70)
	昭55	32 (7.48)	29 (6.78)	61 (14.25)
陶材溶着鑄造冠	昭52	16 (7.02)	8 (3.51)	24 (10.53)
	昭49	2 (1.85)	6 (5.56)	8 (7.41)
	昭55		1 (0.23)	1 (0.23)
ジャケット冠	昭52			
	昭49			
	昭55			
レジン ジャケット冠	昭52			
	昭49			
	昭55		1 (0.23)	1 (0.23)
ポーセレン ジャケット冠	昭52			
	昭49			
	昭55			
継 続 歯	昭52		2 (0.88)	2 (0.88)
	昭49	1 (0.93)	1 (0.93)	2 (1.85)
	昭55	24 (5.61)	10 (2.33)	34 (7.94)
一 部 被 覆 冠	昭52	15 (6.58)	5 (2.19)	20 (8.77)
	昭49	14 (12.96)	3 (2.78)	17 (15.74)
	昭55			
計	昭55	238 (55.61)	190 (44.39)	428 (100.00)
	昭52	117 (51.32)	111 (48.68)	228 (100.00)
	昭49	67 (62.04)	41 (37.96)	108 (100.00)

()%
昭55：昭和55年
昭52：昭和52年
昭49：昭和49年

次に住所別患者数をみると塩尻市内在住者が297人(55.31%)を占めているが、先に調査報告した昭和49年²³⁾の63.50%、昭和52年⁷⁾の57.55%に比べると僅かに減少傾向にあった。しかし、その差は少なく今後の調査を待って検討したい。

次に単独冠および架工義歯の装着頻度についてみると、まず単独冠では昭和55年1か年間の総製作数は1146個を数え、昭和49年²³⁾の233個、同52年⁷⁾の514個に比べると調査年毎に2倍強の増加をみた。また、架工義歯は昭和55年1か年間に195装置を製作し、同52年⁷⁾の107装置、同49年²³⁾の48装置に比べると、これもまた、調査年毎に2倍を前後する増加をみた。開院7年を経て、付近在住者に大学病院として一応の評価を得たものと理解してよい。

また、年代別にみると20～50歳代の単独冠装着率は全体の約90%を占めたが、これは先の調査^{7,23)}や小森ら(1977)¹⁵⁾の報告とも同じであった。厚生省の調査¹⁸⁾でも、これらの年代での金属冠の年齢別処置歯数は81%強、継続歯では85%弱であったことも報告されており、本調査結果が傾向を異にしていないことが理解できる。

架工義歯支台装置についても20、30および40歳代の装着率が高率で全体の75.70%を占めていた。架工義歯の装着数と年齢との関係についてみても20、30および40歳代の装着率は76.92%であったが、この2つの値が近似していることについては当然の結果と思われる。これを宮内ら(1956)¹⁹⁾の80.4%(昭和27年、同28年)、79.9%(昭和22年同23年)、平沼ら(1959)²⁰⁾の81.84%、平沼ら(1967)⁴⁾の92%、入野ら(1975)⁶⁾の85.5%、河原ら(1978)¹¹⁾の74.7%、小森ら(1977)¹⁵⁾の架工義歯支台装置の装着頻度81.20%という報告と比較すると若干低い装着率の傾向にあると思われたが、20、30および40歳代での装着率が高いという点では各報告と一致していた。このことは小森ら(1977)¹⁵⁾が考察しているように、架工義歯の適応症が1～数歯以内の少数歯欠損であることと、20歳代から40歳代までの1人平均の喪失歯数が厚生省の報告¹⁸⁾では0.40歯～6.12歯であることと考え合わせるとうなづける結果である。

性別に装着頻度をみた場合、単独冠では、昭和49年²³⁾、昭和52年⁷⁾の調査結果より、女のほうが男よりも装着率の増加傾向をみたが、この女の装着

表19：架工義歯支台装置の種類別および部位別装着数

種類	部位 調査年	3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		$\frac{8+8}{8+8}$		
		昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55	昭52	昭55
全部 鑄造冠	昭55		61 (14.25)	75 (17.52)	136 (31.78)		94 (21.96)	101 (23.60)	195 (45.56)	331 (77.34)										
	昭52		36 (15.79)	37 (16.23)	73 (32.02)		46 (20.10)	50 (21.93)	96 (42.11)	169 (74.12)										
	昭49		16 (14.81)	16 (14.81)	32 (29.62)		19 (17.59)	23 (21.29)	42 (38.88)	74 (68.52)										
前 装 冠	昭55	34 (7.94)	9 (2.10)		43 (10.04)	9 (2.10)	7 (1.64)	3 (0.70)	19 (4.44)	62 (14.48)										
	昭52	26 (11.40)	3 (1.32)	1 (0.44)	30 (13.16)	5 (2.19)	2 (0.88)		7 (3.07)	37 (16.23)										
	昭49	12 (11.11)	2 (1.85)	1 (0.93)	15 (13.89)					15 (13.89)										
既製陶歯 前装冠	昭55				2 (0.88)		2 (0.88)			2 (0.88)										
	昭52				3 (2.78)		3 (2.78)			3 (2.78)										
	昭49				1 (0.23)		1 (0.23)			1 (0.23)										
レジン前装冠	昭55	8 (3.51)	1 (0.44)		9 (3.95)	1 (0.44)	1 (0.44)		2 (0.88)	11 (4.82)										
	昭52	3 (2.78)	1 (0.93)		4 (3.70)					4 (3.70)										
	昭49	34 (7.94)	8 (1.87)		42 (9.81)	9 (2.10)	7 (1.64)	3 (0.70)	19 (4.44)	61 (14.25)										
陶材溶着 鑄造冠	昭55	16 (7.02)	2 (0.88)	1 (0.44)	19 (8.33)	4 (1.75)	1 (0.44)		5 (2.19)	24 (10.53)										
	昭52	6 (5.56)	1 (0.93)	1 (0.93)	8 (7.41)					8 (7.41)										
	昭49			1 (0.23)	1 (0.23)					1 (0.23)										
ジャケット冠	昭55																			
	昭52																			
	昭49																			
レジン ジャケット冠	昭55			1 (0.23)	1 (0.23)					1 (0.23)										
	昭52																			
	昭49																			
ポーセレン ジャケット冠	昭55																			
	昭52																			
	昭49																			
継 続 歯	昭55	2 (0.88)			2 (0.88)					2 (0.88)										
	昭52	2 (1.85)			2 (1.85)					2 (1.85)										
	昭49	7 (1.64)	10 (2.33)		17 (3.97)	5 (1.17)	9 (2.10)	3 (0.70)	17 (2.77)	34 (7.94)										
一部被覆冠	昭55	3 (1.32)	1 (0.44)	1 (0.44)	5 (2.19)	7 (3.07)	5 (2.19)	3 (1.32)	15 (6.58)	20 (8.77)										
	昭52	11 (10.19)			11 (10.19)	2 (1.85)	4 (3.70)	23 (21.29)	6 (5.56)	17 (15.74)										
	昭49																			
計	昭55	41 (9.58)	80 (18.69)	76 (17.76)	197 (45.03)	14 (3.27)	110 (25.70)	107 (25.00)	231 (53.97)	428 (100.00)										
	昭52	31 (13.60)	40 (17.54)	39 (17.11)	110 (48.25)	12 (5.26)	53 (23.25)	53 (23.25)	118 (51.75)	228 (100.00)										
	昭49	25 (23.15)	18 (16.67)	17 (15.74)	60 (55.56)	2 (1.85)	23 (21.30)	23 (21.30)	44 (44.44)	108 (100.00)										

()%
昭55：昭和55年
昭52：昭和52年
昭49：昭和49年

表20：架工義歯支台築造体の種類別および部位別築造数

種類	部位 調査年	3+3		54+45		8-6 6-8		8+8		3+3		54+45		8-6 6-8		8+8		8+8	
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)
キャストコア	昭55	15 (9.09)	28 (16.97)	23 (13.94)	66 (40.00)	2 (1.21)	37 (22.42)	34 (20.61)	73 (44.24)	139 (84.24)									
	昭52	10 (13.33)	12 (16.00)	11 (14.67)	33 (44.00)	2 (2.67)	9 (12.00)	12 (16.00)	23 (30.67)	56 (74.67)									
	昭49	5 (11.11)	4 (8.29)	6 (13.33)	15 (33.33)		8 (17.78)	9 (20.00)	17 (37.78)	32 (71.11)									
アマルガムコア	昭55		1 (0.61)		1 (0.61)		3 (1.81)		10 (6.06)	13 (7.88)	14 (8.48)								
	昭52						2 (2.67)		2 (2.67)	4 (5.33)	4 (5.33)								
	昭49																		
レジンコア	昭55		1 (0.61)	3 (1.81)	4 (2.42)		5 (3.03)	3 (1.81)	8 (4.85)	12 (7.27)									
	昭52	3 (4.00)	2 (2.67)	4 (5.33)	9 (12.00)		1 (1.33)	5 (6.67)	6 (8.00)	15 (20.00)									
	昭49		4 (8.89)		4 (8.89)		4 (8.89)	5 (11.11)	9 (20.00)	13 (28.89)									
セメントコア	昭55																		
	昭52																		
	昭49																		
計	昭55	15 (9.09)	20 (18.18)	26 (15.76)	71 (43.03)	2 (1.21)	45 (27.27)	47 (28.48)	94 (56.97)	165 (100.00)									
	昭52	13 (17.33)	14 (18.67)	15 (20.00)	42 (56.00)	2 (2.67)	12 (16.00)	19 (25.33)	33 (44.00)	75 (100.00)									
	昭49	5 (11.11)	8 (17.78)	6 (13.33)	19 (42.22)		12 (26.67)	14 (31.11)	26 (57.78)	45 (100.00)									

()%
昭55：昭和55年
昭52：昭和52年
昭49：昭和49年

率62.30%は、調査患者数の多い入野ら(1957)⁶⁾、河原ら(1978)¹¹⁾、小森ら(1977)¹⁵⁾、平沼ら(1967)⁴⁾、岸ら(1971)¹³⁾、加藤ら(1974)⁸⁾、加藤ら(1978)⁹⁾の各報告と比べると、いずれよりも低い値であった。このことは地域の特殊性なども考えられるが、今後も患者数の増加とともに女の装着率の増加を推測できる成績であった。また、架工義歯支台装置は昭和49年²³⁾、同52年⁷⁾、同55年ともすべて男のほうが女よりも高率であった。河原ら(1977)¹⁰⁾、宮内ら(1956)¹⁹⁾、平沼ら(1959)³⁾、平沼ら(1967)⁴⁾、岸ら(1971)¹³⁾、加藤ら(1974)⁸⁾、加藤ら(1978)⁹⁾、入野ら(1975)⁶⁾、中嶋ら(1977)²⁰⁾いずれも女の装着率が男を上回っており、本調査とは逆の結果と

なった。患者の男女数は女のほうが多いが、架工義歯の装着数では男のほうが多かったことによる当然の結果であるが、これは架工義歯の製作数そのものが、195装置と甘利ら(1980)¹¹⁾の618装置、河原ら(1977)¹⁷⁾の1156装置など、他の調査に比べて著しく少なく、一様に本調査特有の傾向であると結論づけることはできない。さらに今後の調査によって検討を加えたい。

次に部位別にみた装着頻度を検討すると、単独冠では上顎前歯部のほうが下顎前歯部よりも装着率が圧倒的に高い傾向は、これまでの調査報告^{7,23)}においても認められ、さらに入野ら(1957)⁶⁾、小森ら(1977)¹⁵⁾、宮内ら(1956)¹⁹⁾、河原ら(1978)¹¹⁾、

表21：架工義歯支台築造体の種類別および架工義歯支台装置の種類別築造数

種類	支台歯の種類 調査年	全部	前	既	レ	陶	ジ	レ	ポ	ジ	継	一	計
		鑄造冠	装冠	製前装冠 陶歯冠	ジン前装冠	材鑄造冠 溶着冠	ジャケット冠	ジンジャケット冠	ーセレン	ジャケット冠	続歯	部被覆冠	
キャストコア	昭55	120 (72.73)	19 (11.52)			19 (11.52)							139 (84.24)
	昭52	44 (58.67)	12 (16.00)		3 (4.00)	9 (12.00)							56 (74.67)
	昭49	27 (6.00)	3 (6.67)	1 (2.22)	2 (4.44)							2 (4.44)	32 (71.11)
アマルガムコア	昭55	14 (8.48)											14 (8.48)
	昭52	4 (5.33)											4 (5.33)
	昭49												
レジンコア	昭55												
	昭52												
	昭49												
セメントコア	昭55	12 (7.27)											12 (7.27)
	昭52	12 (16.00)	3 (4.00)	2 (2.67)		1 (1.33)							15 (20.00)
	昭49	12 (26.67)	1 (2.22)	1 (2.22)									13 (28.89)
計	昭55	146 (88.48)	19 (11.52)			19 (11.52)							165 (100.00)
	昭52	60 (80.00)	15 (20.00)	2 (2.67)	3 (4.00)	10 (13.33)							75 (100.00)
	昭42	39 (86.67)	4 (8.89)	2 (4.44)	2 (4.44)							2 (4.44)	45 (100.00)

() %

昭55：昭和55年

昭52：昭和52年

昭49：昭和49年

平沼ら(1967)⁴⁾、加藤ら(1974)⁸⁾、加藤ら(1978)⁹⁾、江河ら(1951)²⁾、中沢ら(1953)²¹⁾、中沢ら(1959)²²⁾、角田ら(1963)²⁵⁾、井上ら(1967)⁵⁾、小島ら(1975)¹⁴⁾、鶴山ら(1977)²⁶⁾らと同様の結果であった。このことは、下顎前歯部の齲蝕罹患率が上顎前歯部に比較して低いことや、厚生省のまとめた「昭和56年歯科疾患実態調査報告¹⁰⁾」でも上顎前歯部に比べて下顎前歯部の健全歯数が約11%強も多かったことが報告されていることから容易に理解できる。また架工義歯の支台装置として高頻度に装着され

た部位は上、下顎とも小白歯部で、昭和52年⁷⁾の成績および小森ら(1977)¹⁶⁾の報告と一致したが、これは架工歯の部位別頻度でも大白歯部、とくに下顎大白歯部が高頻度であるということと関連づけると理解しやすい。また、下顎白歯部の欠損補綴が多い成績を得たのは菊池ら(1959)¹²⁾の報告にあるとおり下顎大白歯の喪失頻度が他の歯種よりも高いことを裏づけるものである。

次に単独冠および架工義歯の支台装置の種類別装着頻度について検討を加えると、まず、単独冠

表22：架工歯の年代別および部位別装着数

年代	部位 調査年	3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		3+3		54 45		8-6 6-8		8+8		8+8			
		1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	2	(0.94)
20歳未満	昭55	1	(0.47)																		
	昭52			1	(0.82)	1	(0.82)					1	(0.82)	1	(0.82)					2	(1.64)
	昭49			1	(1.61)	2	(3.23)					2	(3.23)	2	(3.23)					4	(6.45)
20歳代	昭55	6	(2.83)	7	(3.30)	12	(5.66)	25	(11.79)	1	(0.47)	6	(2.83)	28	(13.21)	35	(16.51)	60	(28.30)		
	昭52	5	(4.10)	6	(4.92)	9	(7.38)	20	(16.39)					24	(19.67)	24	(19.67)	44	(36.07)		
	昭49	4	(6.45)	5	(8.06)	1	(1.61)	10	(16.13)			2	(3.23)	7	(11.29)	9	(14.52)	19	(30.65)		
30歳代	昭55	4	(1.89)	11	(5.19)	9	(4.25)	24	(11.32)			6	(2.83)	22	(10.38)	28	(13.21)	52	(24.53)		
	昭52	6	(4.92)	3	(2.46)	7	(5.74)	16	(13.11)	1	(0.82)	7	(5.74)	14	(11.48)	22	(18.03)	38	(31.15)		
	昭49	5	(8.06)	3	(4.84)	4	(6.45)	12	(19.35)			2	(3.23)	3	(4.84)	5	(8.06)	17	(27.42)		
40歳代	昭55	1	(0.47)	8	(3.77)	18	(8.49)	27	(12.74)	5	(2.36)	6	(2.83)	11	(5.19)	22	(10.38)	49	(23.11)		
	昭52	2	(1.64)	3	(2.46)	3	(2.46)	8	(6.56)	3	(2.46)	1	(0.82)	5	(4.10)	9	(7.38)	17	(13.93)		
	昭49	1	(1.61)	2	(3.23)	1	(1.61)	4	(6.45)					3	(4.84)	3	(4.84)	7	(11.29)		
50歳代	昭55	3	(1.42)	7	(3.30)	4	(1.89)	14	(6.60)			3	(1.42)	19	(8.96)	22	(10.38)	36	(16.98)		
	昭52	4	(3.28)	3	(2.46)	5	(4.10)	12	(9.84)	1	(0.82)	1	(0.82)			2	(1.64)	14	(11.48)		
	昭49			3	(4.84)	3	(4.84)	6	(9.68)			3	(4.84)	6	(9.68)	9	(14.52)	15	(24.19)		
60歳代	昭55	1	(0.47)	1	(0.47)	2	(0.94)	4	(1.89)	1	(0.47)	1	(0.47)	1	(0.47)	3	(1.42)	7	(3.30)		
	昭52	1	(0.82)	2	(1.64)			3	(2.46)					2	(1.64)	2	(1.64)	5	(4.10)		
	昭49																				
70歳代	昭55	3	(1.42)			1	(0.47)	4	(1.89)					2	(0.94)	2	(0.94)	6	(2.83)		
	昭52											2	(1.64)			2	(1.64)	2	(1.64)		
	昭49																				
80歳以上	昭55																				
	昭52																				
	昭49																				
計	昭55	19	(8.96)	34	(16.04)	46	(21.70)	99	(46.70)	7	(3.30)	22	(10.38)	84	(39.62)	113	(53.30)	212	(100.00)		
	昭52	18	(14.75)	17	(13.93)	25	(20.49)	60	(49.18)	5	(4.10)	11	(9.02)	46	(37.70)	62	(50.82)	122	(100.00)		
	昭49	10	(16.13)	14	(22.58)	10	(16.13)	34	(54.45)			7	(11.29)	21	(33.87)	28	(45.16)	62	(100.00)		

()%
 昭55：昭和55年
 昭52：昭和52年
 昭49：昭和49年

においては全部鑄造冠の占める割合が他の種類と比べると最も多かった。部位別にみた場合には、最も製作数の多かった上顎前歯部では陶材溶着鑄造冠とレジンジャケット冠でほとんどを占めていた。審美的配慮が必要なことを考えれば当然であるが、この陶材溶着鑄造冠とレジンジャケット冠を性別にみると女のほうが男の2倍多く、年代別にみると前者は20歳代、後者は40歳代において最も多い頻度を示した。先の昭和49年²³⁾の報告をみると、陶材溶着鑄造冠の装着率は同程度だが、既製陶歯前装冠や陶材ジャケット冠が若干みられ、レジンジャケット冠の装着率が少なかった。昭和52年⁷⁾の成績では、レジンジャケット冠の装着率が増加する一方で既製陶歯前装冠や陶材ジャケット冠はみられなかった。今回の成績では、陶材溶着鑄造冠とレジンジャケット冠が審美的補綴物のほとんどを占めるに至った。小森ら(1977)¹⁵⁾は既製陶歯前装冠やレジンジャケット冠も若干みられ、レジン前装冠が陶材溶着鑄造冠と同頻度の高率でみられたとし、河原ら(1978)¹¹⁾は過去5年間で陶材溶着鑄造冠とレジン前装冠が非常に高率で合わせて48.7%に達し、既製陶歯前装冠、陶材ジャケット冠、レジンジャケット冠が非常に少なくなっていることを報告している。今回の調査でレジンジャケット冠が高い頻度で製作、装着され、結果を異にしているが、これは病院所在地の環境や学生臨床実習での教育内容の違いなども一因していることによるものと考えたい。架工義歯支台装置については、昭和49年²³⁾、昭和52年⁷⁾と比べて、全部鑄造冠、陶材溶着鑄造冠が増加傾向を示し、一部被覆冠や、既製陶歯前装冠、レジン前装冠が減少傾向にあったが、臼歯部における陶材溶着鑄造冠の使用頻度の増加が特徴的であった。これは、患者の審美的感覚が以前にも増して関心事となり、臼歯部にもこれを希望すると同時に陶材溶着鑄造冠の適合性、材料的強度などに臨床的な安定性が得られるようになったことによるものと思われる。小森ら(1977)¹⁵⁾は全部鑄造冠69.02%、レジン前装冠14.60%、陶材溶着鑄造冠6.98%、河原ら(1978)¹¹⁾は全部鑄造冠48.5%、レジン前装冠28.3%、陶材溶着鑄造冠20.3%と報告し、レジン前装冠が比較的多くみられるが、今回の調査では単独冠でも架工義歯支台装置でも、全部鑄造冠と陶材溶着鑄造冠が主体をなしているのは先に述べ

た理由によるものと考えたい。

次に支台歯の生、失活歯別装着頻度をみると、単独冠では、失活歯が生活歯よりも高頻度に利用されていることは昭和49年²³⁾、昭和52年⁷⁾、小森ら(1977)¹⁵⁾、入野ら(1975)⁶⁾の報告と同様である。これらの成績をみても歯内療法によって、失活歯として保存できる歯の比率が年々増加傾向にあるといえる。架工義歯支台装置については単独冠の場合とは逆に生活歯を支台歯とする数のほうが失活歯のそれを上回っており、昭和49年²³⁾、昭和52年⁷⁾、小森ら(1977)¹⁵⁾、入野ら(1975)⁶⁾らの調査結果と同じであった。これは歯冠部の大きな実質欠損の回復を目的とする単独冠と歯牙欠損の補綴を目的とする架工義歯での支台歯の条件の違いによるものであろう。

失活歯に施した支台築造体について調査した報告は他にあまりみられないが、私たちが先に報告した昭和49年²³⁾と同52年⁷⁾のそれと比較してみると単独冠、架工義歯支台歯ともにキャストコアの使用頻度が高く、依然として支台築造の一般的通念として適合性、強度、耐久性など種々の点からキャストコアが、冠、架工義歯補綴において基本となっていることを示しているものと考えられる。入野ら(1975)⁶⁾も同様な結果を示唆する報告をしている。とくにレジンコアは今回、単独冠において初めてみられたものであった。これはセメントコアが減少し、その分アマルガムコアおよびレジンコアの比率が高くなったものと思われる。アマルガムやレジンを用いた支台築造法では、1回で支台築造ができること、材料の物性もかなり向上したことなど利点がある反面、鑄造金属に比べると、やはり機械的性質は劣る。したがって今回の成績は症例を選択して使用された結果を示すものであろう。辺縁漏洩など、いろいろ問題点も残しているが、とくにレジンについては最近、築造用の材料が次々と開発され、物理的、化学的性質などの面も改善されつつあるので、今後、使用頻度が増すものと推測される。

次に架工義歯について構成要素の面からみると3ユニットのものが最も多く、最高8ユニットまで合計195装置装着されていた。とくに3ユニットのものが他のものよりも圧倒的に高い装着率を示していることについては、架工義歯が歯根膜負担義歯であるゆえに、少数歯欠損を適応症とするこ

と、1歯欠損の場合は、おおむね両隣在歯を支台歯とすることによって補綴できることなどを考えれば当然の結果といえる。また、欠損歯数最高は4歯欠損で昭和49年²³⁾、同52年⁷⁾の成績と比較した場合よりも多数歯の欠損に対して装着され、ロングスパンの症例に対する技法の進歩がうかがわれるものの、これは装着数の増加によるものの中の少数例としたほうが考えやすい。例数の比較的多い、平沼ら(1959)³⁾、平沼ら(1967)⁴⁾、岸ら(1971)¹³⁾、加藤ら(1974)⁸⁾、加藤ら(1978)⁹⁾、角田ら(1963)²⁵⁾、小森ら(1977)¹⁷⁾は各々最高5歯欠損であったとし、河原ら(1978)¹¹⁾は最高8歯欠損と報告していることから本調査の例数からみて、うなづける結果である。また、架工歯1個のものは20および30歳代に比較的多かったが、架工歯2個以上、即ち2歯以上の歯牙欠損の架工義歯に関しては昭和49年²³⁾、同52年⁷⁾、そして今回の調査のいずれをみても20歳代が最も多かった。小森ら(1977)¹⁷⁾の調査では30、40および50歳代と高齢になるほど頻度が多かったとしているが、これも今後、装着数の増加を待って検討してみる必要があると考える。

結 論

昭和55年1月から同年12月までの1か年間に松本歯科大学病院補綴診療科で装着された単独冠および架工義歯について調査し、次の結果を得た。

1. 患者総数は537人で女が男より10%近く多かった。また塩尻市内在住者が5割強を占めた。
2. 装着総数は単独冠1146個、架工義歯195装置であった。
3. 単独冠、架工義歯支台装置ともに20、30、40および50歳代における装着率が高く、それぞれ合計すると89.76%、92.29%を占めた。
4. 単独冠では女が男より約25%多く、架工義歯支台装置では男が女より11%程多く装着された。
5. 単独冠では上顎前歯部が23.21%、架工義歯支台装置では下顎小臼歯部が25.70%、架工歯は下顎大臼歯部が39.62%と部位別装着率で、それぞれ最も多かった。
6. 単独冠、架工義歯支台装置いずれも全部鑄造冠の装着頻度が最も高く、それぞれ63.18%、77.34%で陶材溶着鑄造冠がそれぞれ15.71%、

14.25%と、これに次いだ。

7. 単独冠支台歯では失活歯が84.38%、架工義歯支台歯では、生活歯が60.98%を占めた。

8. 単独冠支台歯、架工義歯支台歯の支台築造体は、いずれもキャストコアが大部分を占め、それぞれ91.93%、84.24%であった。

9. 架工義歯は3ユニットのものが82.56%で大部分を占め、ユニット数は8ユニットが最多であった。

10. 架工歯1個の架工義歯が92.82%と大部分を占め、架工歯数は4歯が最多であった。

11. 架工歯は20歳代の下顎大臼歯部への装着率が13.21%と最も高かった。

12. 昭和49年、同52年の報告と今回の調査結果を比較すると、患者数は昭和49年の約4.6倍になった。また、単独冠および架工義歯支台装置の装着数は、昭和52年に比して前者は約2.2倍、後者は約1.9倍の増加を示した。単独冠および架工義歯支台装置の種類別頻度は、昭和49年、同52年および今回の調査結果とも全部鑄造冠が最も多かった。継続歯の装着率は昭和52年に比して、単独冠ではさらに減少し、架工義歯支台装置としてはみられなかった。支台築造体の種類では単独冠および架工義歯支台歯ともに昭和49年、同52年と同様、キャストコアが最も多かった。

文 献

- 1) 甘利光治, 阪本義典, 澤村直明, 川上 健, 藤高洋一, 中達重幸, 菊池 肇, 大野直人, 小森忠幸(1980) 昭和53年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察. その3 架工義歯について. 歯科医学, 43: 426~433.
- 2) 江河友和, 三宅直晴(1951) 10ヶ年の間隔を置いて調査した最近の補綴臨床統計. 歯科学報, 51: 22~27.
- 3) 平沼謙二, 橋本 譲, 小沢 至, 杉浦英二(1959) 橋義歯の統計的観察. 補綴誌, 3: 101~105.
- 4) 平沼謙二, 藤田直輝, 磁貝貴彦, 飯田盛男, 高島沿己(1967) 補綴物の統計的観察. 補綴誌, 11: 109~115.
- 5) 井上昌幸, 佐藤敏郎, 花村典之, 児林三代, 鈴木康夫(1967) 諸種補綴物の比較統計的観察(5). 口病誌, 34: 252~260.
- 6) 入野 誠, 渡辺勇一, 穂積英男, 吉田恵夫(1975) 各種補綴物の統計(1). 補綴誌, 19: 311~316.
- 7) 伊藤晴久, 竹内利之, 戸祭正英, 長田 淳, 三沢京子, 岩崎精彦, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡 滋,

- 高橋喜博, 甘利光治 (1985) 昭和52年における冠架工義歯補綴に関する統計的観察. 松本歯学, 11 : 84~102.
- 8) 加藤寿彦, 小原久和, 石垣光敏, 若林康郎, 香川博一郎, 塚本勝彦 (1974) 冠・橋義歯補綴物の統計的観察. 愛院大誌, 12 : 6~17.
- 9) 加藤寿彦, 香川博一郎, 塚本勝彦, 手島了也, 瀧川融, 青柳明夫, 村井直子, 竹花庄治 (1974) 冠・橋義歯補綴物の統計的観察. 愛院大誌, 16 : 62~68.
- 10) 河原邑安, 谷口勉, 藤本正之, 森勝利, 藤田茂信, 今上茂樹, 山本萬里子, 村山茂樹 (1977) 大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における補綴物の統計的観察 その1. 各種補綴物の装着頻度について. 歯科医学, 40 : 916~922.
- 11) 河原邑安, 谷口勉, 藤本正之, 森勝利, 藤田茂信, 今上茂樹, 村山茂樹, 山本萬里子, 金村恵司 (1978) 大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における補綴物の統計的観察 その3. とくに架工義歯について. 歯科医学, 41 : 455~463.
- 12) 菊池博 (1959) 口腔診査成績の機械的統計的処理法について 第2報. 口腔衛生学会雑誌, 9 : 104~135.
- 13) 岸弥学子, 内田忠雄, 笠井彰 (1971) 冠橋義歯補綴物の統計的観察. 愛学大歯誌, 9 : 116~124.
- 14) 小島秀男, 関純男, 花村典之 (1975) 諸種補綴物の比較統計的観察 I. 鶴見歯学, 1 : 77~81.
- 15) 小森富夫, 北上徹也, 甘利光治, 里見雅輝, 吉田温, 藤多文雄, 小沢寛, 沢村直明, 松本博, 杉中功一 (1977) 冠・架工義歯補綴に関する統計的観察 その1. 単独補綴歯冠について. 歯科医学, 40 : 688~694.
- 16) 小森富夫, 北上徹也, 甘利光治, 阪本義典, 里見雅輝, 吉田温, 藤多文雄, 高本典章, 松本博, 藤高洋一 (1977) 冠・架工義歯補綴に関する統計的観察 その2. 架工義歯支台装置について. 歯科医学, 40 : 695~702.
- 17) 小森富夫, 北上徹也, 甘利光治, 里見雅輝, 吉田温, 藤多文男, 小沢寛, 沢村直明, 末瀬一彦, 小森忠幸 (1977) 冠・架工義歯補綴に関する統計的観察 その3. 架工義歯について. 歯科医学, 40 : 892~898.
- 18) 厚生省医務局歯科衛生課編 (1981) 昭和56年歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会.
- 19) 宮内孝雄, 久保田英雄, 田中誠和, 長田昇, 長塚文男 (1956) 最近の補綴臨床の統計的観察. 歯科学報, 56 : 34~40.
- 20) 中嶋武, 小林琢三, 山田芳夫, 吉田忠 (1977) 各種補綴物の10年間の統計(I). 岩医大歯誌, 2 : 22~28.
- 21) 中沢勇, 中村光雄 (1953) 諸種補綴物の比較統計的観察 (第3報). 口病誌, 20 : 136~141.
- 22) 中沢勇, 平沼謙二, 小沢至, 富士川善彦 (1959) 諸種補綴物の比較統計的観察(4). 口病誌, 26 : 360~365.
- 23) 長田淳, 三沢京子, 戸祭正英, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 石原善和, 大野稔, 小山敏, 高橋久美子, 押川卓一郎, 甘利光治 (1985) 昭和49年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察. 松本歯学, 11 : 70~83.
- 24) 笹本正次郎, 三井男也 (1970) "昭和44年歯科疾患実態調査" の解説. 歯界展望, 36 : 1081~1086.
- 25) 角田篤美, 間島道夫, 小倉正彦, 篠部正夫, 小谷泰洋, 広田賢徳 (1963) 最近2か年間に作製された諸種補綴物の実態に関する統計的観察. 補綴誌, 7 : 75~80.
- 26) 鷗山秀夫, 梅本智代, 佐藤阿里子, 花村典之 (1977) 諸種補綴物の比較統計的観察III. 鶴見歯学, 3 : 121~128.